

2011年5月24日

アメリカ合衆国大統領
バラク・F・オバマ 殿

日本原水爆被害者団体協議会

米国のZマシンによる新しい形の核実験に抗議する

米エネルギー省は、強力なエックス線を使い新しい形の核実験を行なったことを明らかにした。これまでの臨界前核実験は地下核実験場で行なっていたが、今回は、ニューメキシコ州アルバカーキの研究所で実施された。同省によると、実験は昨年11月と今年3月、サンディア、ロスアラモス両国立研究所のチームが行ない、「Zマシン」と呼ばれる装置で発生させた強力なエックス線を超高温、超高压状態にしてプルトニウムに照射し、データが収集された。

66年前の8月、私たちは広島と長崎で、人類史上初めて原子爆弾の攻撃を受けた。自らのからだに心を受けた深い傷を、66年の間、さらに深く刻みこみながら、私たちは、核兵器が人間と共存できない悪魔の兵器であることを世界に訴え、ふたたび被爆者をつくってはならないという強い決意のもと、一日も早い核兵器の廃絶をもとめて行動してきた。

しかし、核保有国は、核兵器の使用を前提とする核抑止力の神話にすぎり、核兵器をなくそうとしていない。またその同盟国は核の傘にしがみつき、核兵器の存在と使用を容認している。2009年4月のプラハ演説で核兵器を使用した唯一の核保有国としての道義的責任にも言及し「核兵器のない世界」実現への希望を国際社会にもたらしたオバマ大統領は、その後、核態勢の見直しを行い、第8回NPT再検討会議においても成功に向けての協力的姿勢を示したにもかかわらず、これらの実験は、核抑止力を依然として維持強化するねらいがあり、核兵器廃絶への流れに明らかに逆行するものである。しかも新しい核兵器開発に繋がる可能性もあり、被爆者は、決して容認することができない。

われわれは要求する

- 1) 「核兵器の使用と威嚇は国際法に違反する」とする国際司法裁判所の勧告的意見を真摯に受け止め、臨界前核実験の計画を永久に放棄すること。
- 2) 2000年5月NPT再検討会議での「自国の核兵器の完全な廃絶を達成するという明確な約束」を再確認し、核兵器の使用がもたらすであろう壊滅的結果に深刻な懸念を表明して核兵器の廃絶へ向けての新たな前進を確認した合意文書を尊重し、行動提起の実現を図ること。
- 3) 核兵器廃絶のための国際条約締結に向けた多国間交渉をただちに開始すること。